

<プログラム>

5月10日（金）<前夜>

18:00-20:30 哲学教育ワークショップ

「高校における哲学対話教育」

会場：共通講義棟2号館 101

5月11日（土）<第1日>

10:00-10:40

10:40-11:20

11:20-12:00

12:00-13:00

13:00-13:40

14:00-15:00

15:00-18:00

18:20-20:20

一般研究発表Ⅰ

会場：本館1階 124～128教室及び 209 212教室
（7か所）

評議員会

会場：本館103生活科学部大会議室

一般研究発表

総会

会場：徽音堂（本館1階 大学講堂）

大会シンポジウム

「知識・価値・社会～認識論を問い直す」

提題者 伊勢田哲治 金森修 松葉祥一

司会者 河野哲也 戸田山和久

会場：徽音堂（本館1階 大学講堂）

懇親会

会場：大学食堂

5月12日（日）＜第2日＞

10:00-10:40	一般研究発表Ⅱ 会場：本館124～128及び209, 212教室 （7か所）	男女共同参画・若手研究者支援WG主催ワークショップ「哲学とミソジニー」 10:00～13:00 会場：共通講義棟 2号館 101
10:40-11:20		
11:20-12:00		
12:00-13:00	理事会 会場：本館103生活科学部大会議室	
13:00-15:30	公募ワークショップ I 会場：本館306 大講義室 II 会場：共通講義棟2号館 201 III 会場：共通講義棟2号館 101	
15:40-18:10	学協会シンポジウム「アリストテレスを見直すーその背景と達成、そして遺産ー」 提題者 神崎繁 中畑正志 司会 熊野純彦 会場：本館306大講義室	インターナショナルセッション “On Moral Properties: Problems and Varieties of Moral Realism” 提題者 鈴木真 田村圭一 Wolfgang Ertl 司会 成田和信 会場：共通講義棟2号館 201

<お茶の水女子大学へのアクセス>

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

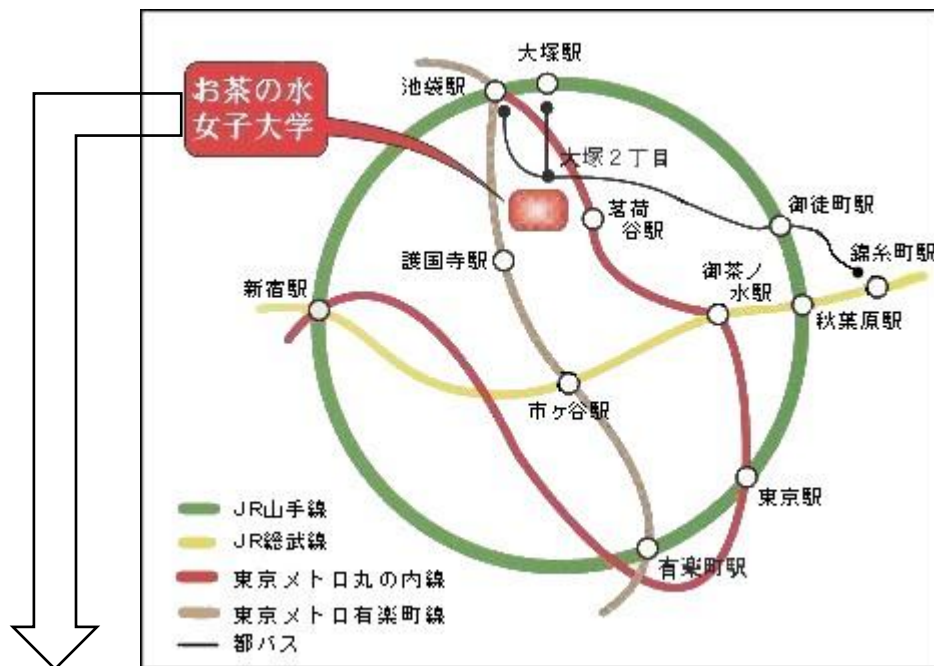
電話番号案内：03-3943-3151

交通機関

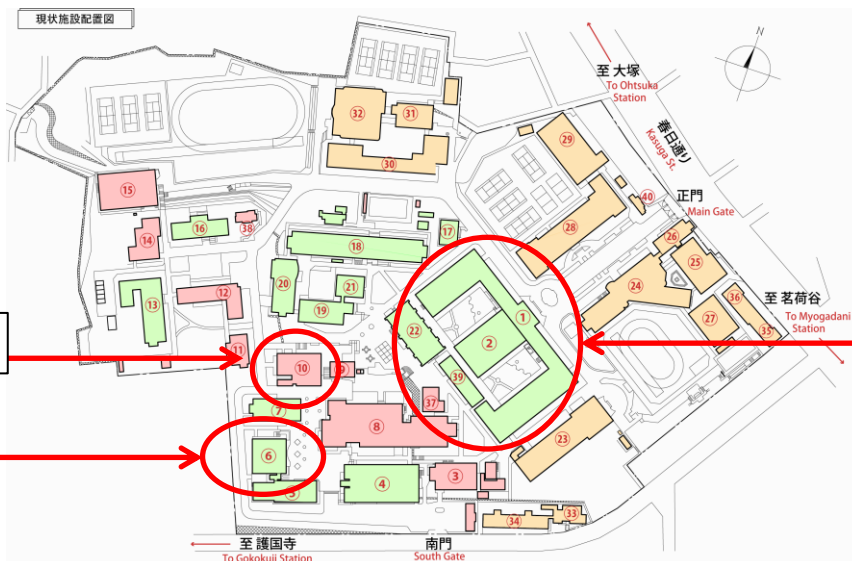
東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅より徒歩7分

東京メトロ有楽町線「護国寺」駅より徒歩8分

都営バス「大塚二丁目」停留所下車徒歩1分



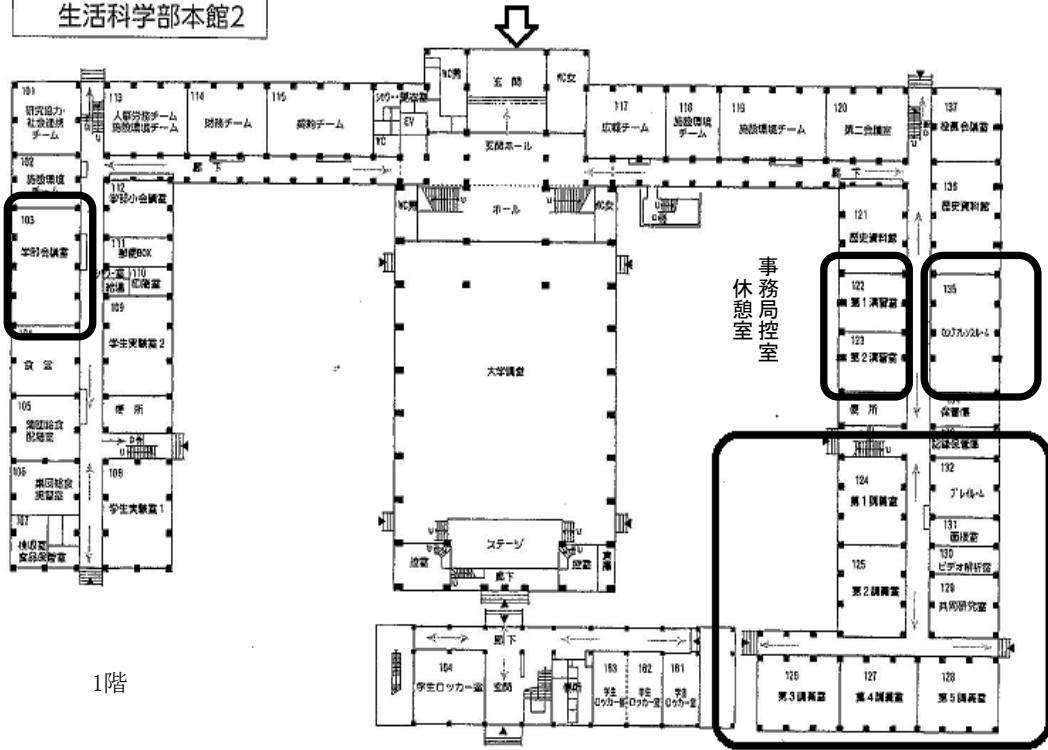
<お茶の水女子大学キャンパス>



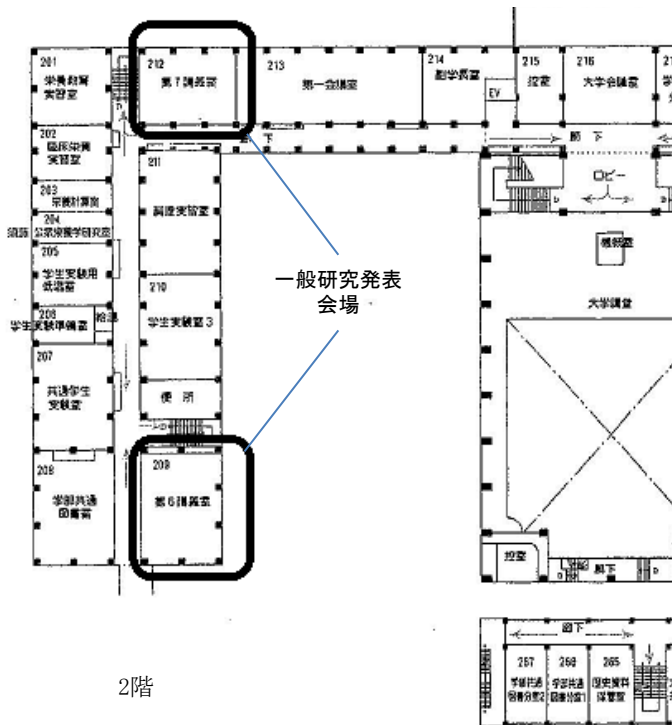
<教室見取り図> 本館

②大学本館
②講堂
生活科学部本館2

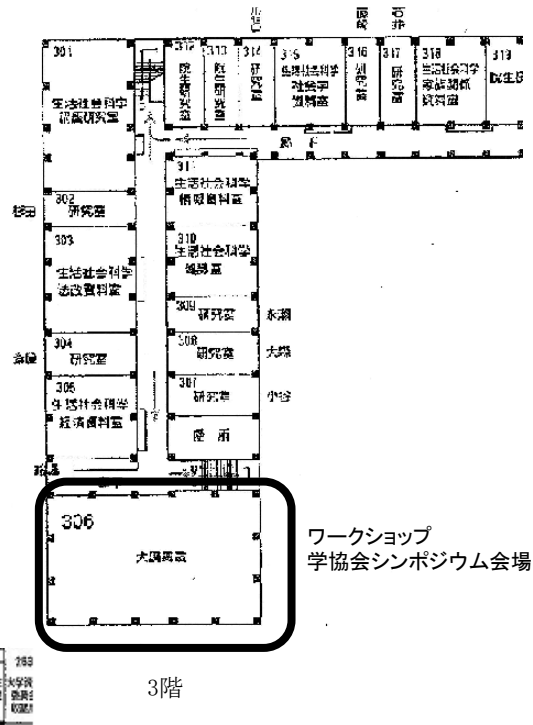
評議員会
理事会会場



1階



2階



3階

※この他、2日目ワークショップ
インターナショナルセッションは
共通講義棟2号館

会員控室	本館135	カンファレンスルーム
事務局控室	本館122	第一演習室
休憩室 (子供可)	本館123	第二演習室

哲学教育ワークショップ

5月10日（日） 18:00-20:30 会場：共通講義棟2号館 101

「高校における哲学対話教育」

司会 宇佐美公生

高校に「倫理」という科目はあるが、哲学教育はその中にとどまるものとは限らない。むしろ、哲学教育は、文系、理系や教科の別を越えて、昨今の先端科学技術がもたらすリスクを前に、これまでの知識や価値を批判的に吟味したり、国際社会の対立をめぐる政治的判断の是非をじっくり考えたりする場としても、必要なのではないだろうか。しかも大学進学をめざさない高校生にとって哲学教育は市民教育という視点からも有意義なものと思われる。ディベートでも単なる論争でもなしに、思考の場を共にする中で、自らの信念を問いにさらし、異なる意見に耳を傾け、理由を考えながら、協働してすめられる「対話形式の哲学教育」の意義や方法について、今回は高校での実践例をうかがいながら皆様と一緒に考えてゆきたい。

【報告者】

Curriculum Design of Philosophy Education for Gifted & Talented Youth in Raffles Institution (Singapore)

Kenneth Low

「考える人は美しい」

本間直樹

「哲学をすべての高校生に」

～Universal design for learning としての哲学対話

綿内真由美

男女共同参画・若手研究者支援ワークショップ

5月12日（日） 10:00-13:00 会場：共通講義棟2号館 101

「哲学とミソジニー」

司会者 村田純一

日本哲学会では男女共同参画の推進を謳っています。その一つの試みとして、本ワークショップ（男女共同参画・若手研究者支援WG主催）を開催します。

1. 日本哲学会の現状 2. 改善には何が必要か 3. 哲学という学問はミソジニー（女性嫌い）を内包しているのか、

などなど、について、ジェンダー法学の専門家の戒能民江氏とWGのメンバーの提題を踏まえて議論します。哲学とミソジニー？一体それ何？という方の参加も大歓迎です。

【報告者】

「フィロソフィアの方法論とイソノミア（平等性）の原理

—日本における哲学の展開と男女共同参画（Gender Equality）の理念」

和泉ちえ

「イメージ、それでもなお——シモーヌ・ヴェイユのゆくえ」

今村純子

「学術における男女共同参画を進めるために」

戒能民江

「哲学とミソジニーの構造」

小島優子

インターナショナルセッション

5月12日（日） 15:40-18:10 会場：共通講義棟2号館 201

International Session

“On Moral Properties:

Problems and Varieties of Moral Realism ”

Facilitator: Kazunobu Narita

Whether realism or anti-realism should be adopted is an issue of major disagreement in metaethics as in many other philosophical disciplines. Moral realists hold that there are moral facts, that the truth of moral judgments can be checked against those facts, and that those facts being what they are (and thus the truth value of moral judgments) is not a function of our mental attitudes toward them.

Moral facts carry with them moral properties (such as moral goodness and badness) as their constituents, and those properties are usually denoted by moral terms. For metaethicists, especially moral realists, one of the fundamental questions concerns the status and features of moral properties: Are moral properties natural or non-natural? Are moral properties intrinsic or extrinsic to things that have them? What kinds of relation hold between moral and non-moral properties? Is a moral property a simple *sui generis* property or a cluster of various properties?

Moral realists differ in their answers to these questions. This difference brings about variety in forms of moral realism. This workshop will provide an indication of how manifold the faces of moral realism can be. G.E. Moore tries to establish that goodness is a non-natural simple property, by offering what is called the Open Question Argument. Wolfgang Ertl will show how Moore does this, by giving a metaphysical interpretation of the argument. Keiichi Tamura will present a pluralist form of moral realism that takes moral properties to be relational and thus extrinsic. Makoto Suzuki will argue that a moral term does not denote a single *sui generis* property but rather a cluster of various properties.

Presenters

“A Naturalistic Account of Current Moral Language: Partial Designation and Partial Truth ”

Makoto Suzuki

“A realist theory of moral values”

Keiichi Tamura

“The Profile of Goodness: Reading the ‘Open-Question Argument’ Metaphysically ”

Wolfgang Ertl

一般研究発表

5月11日（土） 10:00-12:00 13:00-13:40

	第1会場 124	第2会場 125	第3会場 126	第4会場 127
10:00-10:40	質料形相論の 射程 文景楠	スピノザ『エチカ』にお ける「本質の定義」 秋保亘	カント『純粹理性批 判』第二部に関する 考察 林晃紀	『権力の系譜学』 のために 藤田公二郎
10:40-11:20	快苦をめぐる「諸説」 と「現われ」 —アリストテレス倫理学 の方法論について— 加藤喜市	デカルトにおける三 種の区別の議論と その背景 今井悠介	超越論的哲学にお ける構想力の射程 永守伸年	知恵と生、ツァラトゥス トラの二人の女 後期ニーチェ思想で構想さ れる哲学者像 生島弘子
11:20-12:00	交換における正義： アリストテレス『ニコマコ ス倫理学』5巻5章の位置 づけ 稲村一隆	ヒュームにおける時 間と同一性 成田正人	超越論的哲学にお ける規定的判断力と 反省的判断力 朴修範	『物質と記憶』の 二元論 全体的構造の理解 に向けて 天野恵美理
13:00-13:40	『分析論後書』B 巻 第19章における第 一原理の問題 酒井健太郎	ヒュームにおける道 徳的評価と一般的 観点 相松慎也	定言命法三方式の 整合的解釈 客観的必然性としての 「普遍性」・主観的必然性 としての「意志の自由」 李明哲	比喩とリズム —ベルクソンにおける持 続の表現— 長谷川暁人

5月12日（日） 10:00-12:00

	第1会場 124	第2会場 125	第3会場 126	第4会場 127
10:00-10:40	感覚知覚は世界のある り方をどのように把握 するのか —プラトン『テ アイテス』における知覚 理論 福田宗太郎	同時代の論争におけ るカント『普遍史の理 念』—メンデルスゾーン -アプト論争、そしてCh・ ガルヴェ— 小谷英生	ヘーゲル『大論理 学』における現象と 本質 川瀬和也	フッサールの反心理 主義批判 植村玄輝
10:40-11:20	トマス・アクィナスにお ける質料と可能態 古舘恵介	カントによる世界共 和国否定論につい て —国際法の正当化 との関連で— 石田京子	若きヘーゲルと 心理学 栗原隆	フッサール中期志向性 理論における「対象」の 同一性と「ノエマの意味 における規定可能なX」 富山豊
11:20-12:00	シェリング芸術哲学 の構想力—図式と象 徴の関係から見たカント の変容 八幡さくら	モリニュー問題への カント的回答 清水将吾		

5月11日（土） 10:00-12:00 13:00-13:40

	第5会場 128	第6会場 209	第7会場 212
10:00-10:40	存在論的経験の形而上学の多元性と統一性 後期ハイデガーの存在史の質的拡張 景山洋平	さらなる探求への義務—認識上の義務と倫理上の義務の関係についての—考察 蝶名林亮	形而上学的基礎づけと派生的実在 北村直彰
10:40-11:20	為さざる要なきを為すこととしての能力—『形而上学』⑩巻のハイデガーによる読解から 串田純一	行為の反因果説擁護—正当化理由と説明理由の違いから— 鈴木雄大	A・ジェルの「拡張した心」の哲学的位置づけ 加藤隆文
11:20-12:00	初期ハイデガーを導いた「憂慮」としての人間観 君嶋泰明	自然主義的意味論における表象概念 次田瞬	進化した近代哲学—グルジェフ 中山考司
13:00-13:40	ハイデガー存在論における現象学的解明と世界概念との深化 廣田智子	eo ipsoな知識 重永哲也	『幸福を与える智慧』における自然哲学—ウイグル哲学における自然と精神—ムフタル・アブドゥラフマン

5月12日（日） 10:00-12:00

	第5会場 128	第6会場 209	第7会場 212
10:00-10:40	意識の流れとその固定—W・ジェイムズ『心理学原理』における関係概念の検討— 大厩諒	ウィトゲンシュタインのキェルケゴール体験—後期キェルケゴールの宗教哲学を生きること— 鈴木祐丞	レヴィナスにおける他人(autrui)とく他者>(l'Autre) 小手川正二郎
10:40-11:20	ホワイトヘッド哲学における知覚論 抽象化されたものとしての知覚 佐藤陽祐	言語習得の場面で言語と実在との関係性 ウィトゲンシュタイン哲学と教育 佐藤邦政	レヴィナスにおける「人間的なもの」の意味の探究—『他なる人間の人間主義』の課題および方法論をめぐって— 村上暁子
11:20-12:00	初期ラッセルにみる論理と哲学の関係 伊藤遼	ウィトゲンシュタインの確実性についての研究 橋本哲	ユダヤ哲学の方法論としての無限判断 馬場智一

公募ワークショップ

5月12日（日） 13:00-15:30

	第1 本館306	第2 共通講義棟 2-201	第3 共通講義棟 2-101
13:00-15:30	「理性をもつ動物」 とは誰か？ ー「人格」概念への 現象学的アプローチ	「自己を超えて」 哲学のサブジェクト転換	構成的真理 意味 の理論とパラドクス の解決
	オーガナイザー 小手川正二郎	オーガナイザー 斉藤直子	オーガナイザー 村上祐子
	発表者 吉川孝 池田喬	発表者 村田純一 直江清隆 高橋哲哉	発表者 黒川英徳 矢田部俊介 岡本賢吾